

財務分析

- **財務諸表**を読み解くことで、分析対象企業がどのような経営状態にあるのか？ 理解できるようになる

▶ 経営状態が良化しているのか、悪化しているのか、問題の程度は？ など、状況把握に用いる

▶ 他社との比較によって、強み・弱みを把握することができる

- 目指す数値・指標を定める → 経営意思決定に活用する

主な財務分析 項目

1. 成長性分析
2. 収益性分析
3. 効率性分析
4. 安全性分析
5. 総合分析

効率性分析とは？

売上高を創るにあたり、投下あるいは拘束される資産をどれだけ減らすことができるかを分析することで、資金的な効率性を測定する

< 参考例 >

- ▶ 所有する設備・工場がフル稼働して、高い売上高を創っていると効率的
- ▶ 少ない在庫（滞留する資産を抑える）で、高い売上高を創っていると効率的
- ▶ 前金で先にお金をもらってから必要な財を仕入れ・販売出来る形式だと、先立つ資金を用立てる必要がないので、滞留する現金が不要で効率的

分析内容		計算式	
総資産回転率	(回)	売上高	÷ 総資産
総資産回転期間	(日)	総資産	÷ 1日売上高
売上債権回転率	(回)	売上高	÷ 売上債権
売上債権回転期間	(日)	売上債権	÷ 1日売上高
たな卸資産回転率	(回)	売上原価	÷ たな卸資産
たな卸資産回転期間	(日)	たな卸資産	÷ 1日売上原価
仕入債務回転率	(回)	売上原価	÷ 仕入債務
仕入債務回転期間	(日)	仕入債務	÷ 1日売上原価

運転資本 (WC ワーキングキャピタル) **売上債権 + 棚卸資産 - 仕入債務**

CCC (キャッシュ・コンバージョン・サイクル) **売上債権回転期間 + 棚卸資産回転日数 - 仕入債務回転日数**

▶ 分析対象企業の指標だけでなく、「業界全体の傾向」や「競合との差」などと比較ができると、より多面的に状況を掴める

効率性分析の計算について
詳細は、エクセル資料を参照ください

◆効率性分析 1 総資産の分析

分析内容	計算式
総資産回転率 (回転)	売上高 ÷ 総資産
総資産回転日数 (日数)	総資産 ÷ 1日あたり売上高 (= 売上高 ÷ 365日)

資産を活用して、どの程度売上に結びつけることが出来ているか見る指標

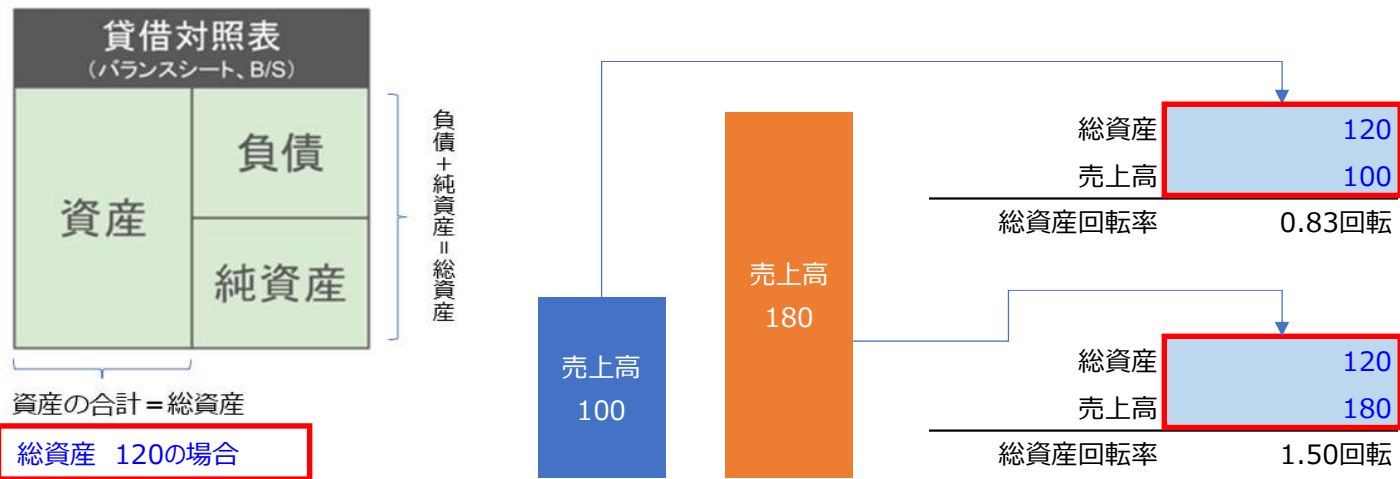
総資産回転率 → 回転数が高いほど、保有資産が売上高に貢献しているため良い

総資産回転率日数 → 日数が少ないほど、保有資産が売上高に貢献しているため良い

↑ 2つの方法で分析できる。表現方法が違っただけで、同じ意味

●分析の勘所（参考）

- ▶ 個別の資産について見る前に、資産全体＝総資産の効率性を見る（まずは、マクロに大きく掴む）
- ▶ 分析の結果、悪くなっている場合はどこに問題があるのか見に行く
 - 悪化要因はどこにあるのか？
 - 売上の伸び方と比べ資産が増えている → 売掛金の回収サイトが伸びたのか、在庫が滞留したのか？
 - 固定資産への投資が、売上増にあまり貢献できていないのか？
- ▶ 同業他社と比べてどういう違いがあるのか？ 比較してみる



青の方は総資産回転率0.83回転 (総資産が、売上高よりも多い)

オレンジの方は総資産回転率1.50回転 (総資産が、売上高よりも少ない)

オレンジの方が、少ない資産を活用し高い売上高を計上できている = 効率的な構造になっていると言える

●計算フォーム

↓ 枠内 青い色付き部分に数値を入れてください

分析項目	直近期	その1年前
売上高	89,765千円	62,582千円
総資産	75,145千円	58,745千円

総資産 回転率	1.19回転	1.07回転	➡ 売上高の伸びが総資産の伸びより大きいので、総資産回転率は増して効率性が良化した
(参考 売上高 成長率	143.4%	-	
(参考 総資産 成長率	127.9%	-	

◆効率性分析 2 売上債権の分析

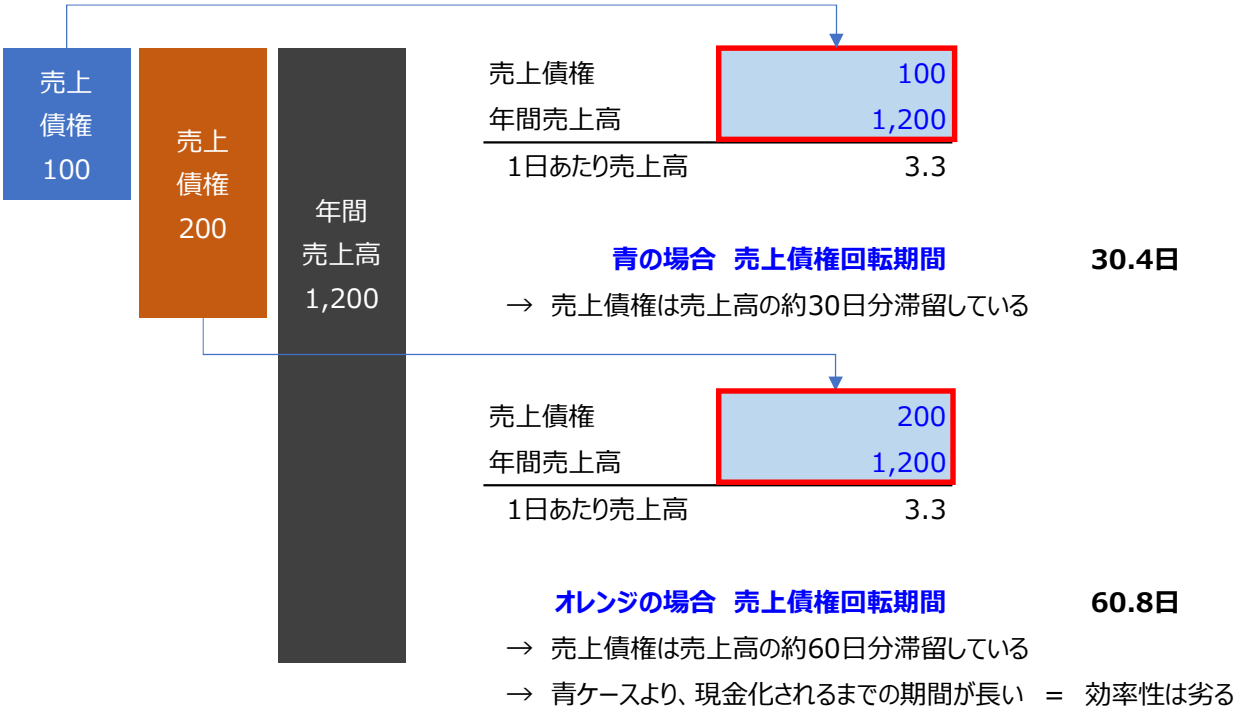
分析内容	計算式
売上債権回転率 (回転)	売上高 ÷ 売上債権
売上債権回転期間 (日数)	売上債権 ÷ 1日売上高 (= 売上高 ÷ 365日)

売上債権がどの程度効率的に回収されているか見る指標

売上債権回転率 → 回転数が高いほど、売上全体に占める債権の割合が少ないため良い

売上債権回転期間 → 売上債権が売上高の何日分に該当するかを示す。少ないほど、早期に現金回収されているため良い

↑ 2つの方法で分析できる。表現方法が違っただけで、同じ意味



回収期間の目安	最短回収期間	最長回収期間	平均 回収サイト
売掛金 月末×切り 翌月末回収	30.0日	60.0日	45.0日
売掛金 月末×切り 翌々月15日回収	45.0日	75.0日	60.0日
売掛金 月末×切り 翌々月末回収	60.0日	90.0日	75.0日

●分析の勘所（参考

▶ 分析の結果、悪くなっている場合はどこに問題があるのか見に行く
→ 売掛金の回収サイトが伸びたのか？ もしくは、回収条件の悪い先に対する売上割合が増えたのか？
→ 売掛金の回収が滞っているのか？ 未回収のまま、現金化されていない債権（不良債権）が増えているのか？

▶ 同業他社と比べてどういう違いがあるのか？ 比較してみる

●計算フォーム

↓ 枠内 青い色付き部分に数値を入れてください

分析項目	直近期	その1年前
売上高	89,765千円	62,582千円
売上債権 (売掛金 + 受取手形)	15,784千円	9,124千円

売上債権回転期間 (日数)	64.2日	53.2日	売上高の伸びが売上債権の伸びより低いので、売上債権回転期間は伸びて効率性が悪化した
(参考 売上高 成長率)	143.4%	-	
(参考 売上債権 成長率)	173.0%	-	

◆効率性分析3 棚卸資産（在庫）の分析

分析内容	計算式
棚卸資産回転率（回転）	売上原価 ÷ 棚卸資産
棚卸資産回転期間（日数）	棚卸資産 ÷ 1日売上原価（＝ 売上原価 ÷ 365日）

在庫を活用して、どの程度売上に結びつけることができているか見る指標

棚卸資産回転率 → 回転数が高いほど、売上原価に占める棚卸資産の割合が少ないため良い
 棚卸資産回転期間 → 棚卸資産が売上原価の何日分に該当するかを示す。少ないほど、在庫が滞留していないため良い

↑ 2つの方法で分析できる。表現方法が違うだけで、同じ意味



●分析の勘所（参考）

- ▶ 分析の結果、悪くなっている場合はどこに問題があるのか見に行く
 - 売れない在庫が滞っているのか？ 陳腐化して販売できない在庫（不良在庫）が増えているのか？
 - 扱い品が増えるに従い、在庫も多くなっているのか？
 - 仕入れ値を下げるため、大口ロットでの調達が増え在庫が嵩んでいるのか？
- ▶ 同業他社と比べてどういう違いがあるのか？ 比較してみる
- ▶ 在庫が多くなると、売れて入金されるまでのつなぎ資金が必要となるほか、在庫を管理するためのコストが発生する。加えて、陳腐化して売れなくなるリスクもあるため、効率性分析的の観点では少ない在庫で多くの売上を創れるのが良い
- ▶ とはいえ、在庫が無いと売上機会を逃すことになるため、適度な量にコントロールする仕組みが重要になる。営業と管理が連携することで、需要予測の精度を上げるほか、川上のサプライヤーと上手くコミュニケーション・連携を取ることで、必要な時に必要な量を調達できる体制を構築していくことが重要になる

●計算フォーム

↓ 枠内 青い色付き部分に数値を入れてください

分析項目	直近期	その1年前
売上原価	74,512千円	58,421千円
棚卸資産	12,354千円	10,354千円

棚卸資産回転期間（日数）	60.5日	64.7日	棚卸資産の伸びが売上原価の伸びより低いので、棚卸資産回転期間は縮まり効率性は良化した
（参考 売上原価 成長率）	127.5%	-	
（参考 棚卸資産 成長率）	119.3%	-	

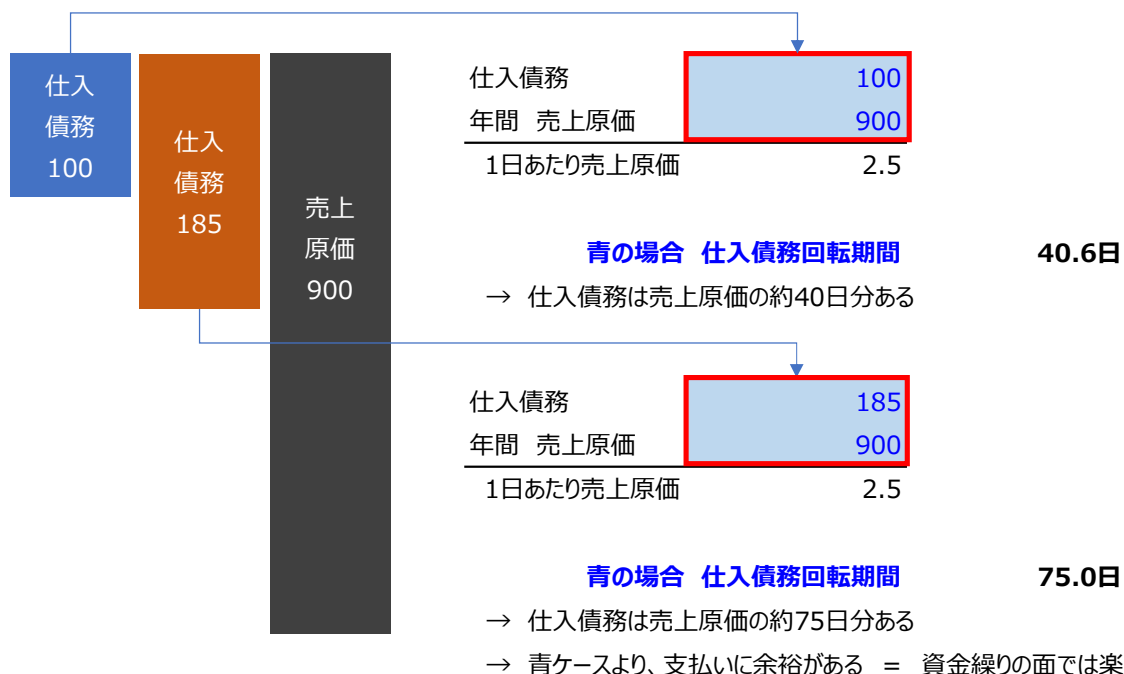
◆効率性分析 4 仕入債務の分析

分析内容	計算式
仕入債務回転率 (回転)	売上原価 ÷ 仕入債務
仕入債務回転期間 (日数)	仕入債務 ÷ 1日売上原価 (= 売上原価 ÷ 365日)

仕入債務の支払いを、どの程度効率的に行っているか見る指標

仕入債務回転率 → 回転数が高いほど、支払いが短期間に行われている。資金繰りの観点では回転率は低いほうが良い
仕入債務回転期間 → 仕入債務が売上原価の何日分に該当するかを示す。日が高い方が資金繰りの観点では良い

↑ 2つの方法で分析できる。表現方法が違うだけで、同じ意味



●分析の勘所（参考）

- ▶ 分析の結果、回転期間が短くなっている（支払いが早くなっている）
 - 支払い条件の変更があったのか？
 - 支払条件の厳しい先（支払いサイトが短い）からの仕入れが増えたのか？
 - 早期に支払う代わりに、値下げや他の優遇を受けているのか？
- ▶ 同業他社と比べてどういう違いがあるのか？ 比較してみる
- ▶ 支払い条件が有利（支払いが遅い）な方が、資金繰りが楽になる。ただし、サプライヤー側からすると、資金負担の大きな販売先ということになる。そもそも、自社に信用力が無いと長期サイトでの仕入れは難しい（与信限度の関係で断られる）

●計算フォーム

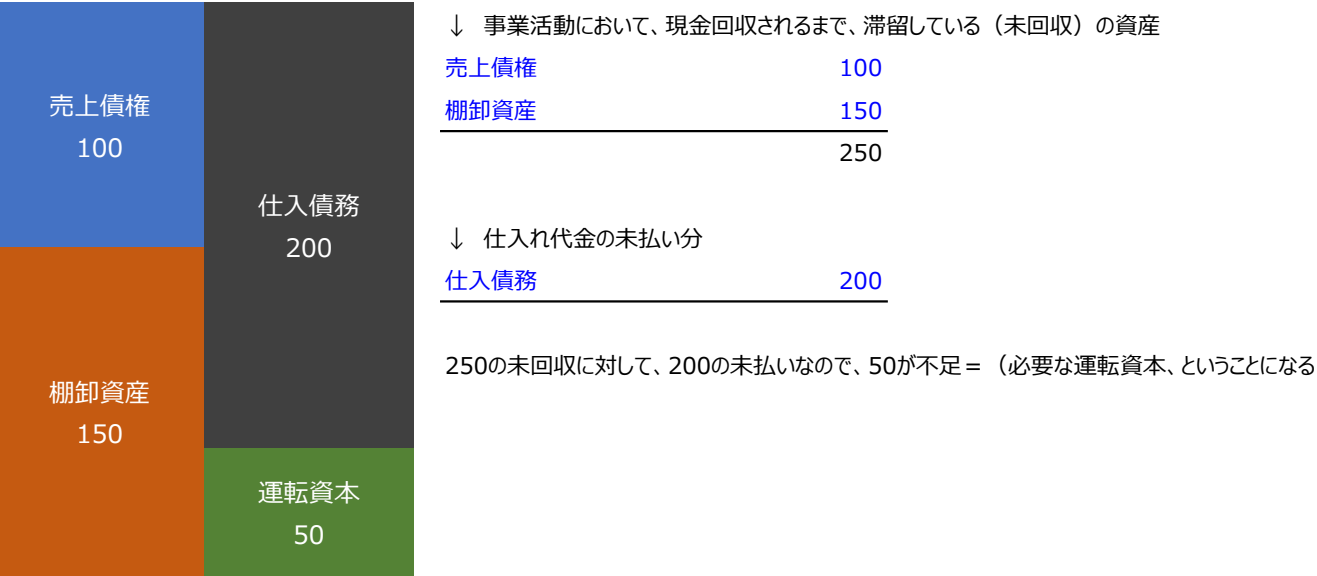
↓ 枠内 青い色付き部分に数値を入れてください

分析項目	直近期	その1年前
売上原価	74,512千円	58,421千円
仕入債務	12,354千円	10,324千円

仕入債務回転期間 (日数)	60.5日	64.5日	仕入債務の伸びが売上原価の伸びより低いので、仕入債務回転期間は縮まり資金繰りの面では悪化した
(参考 売上原価 成長率)	127.5%	-	
(参考 仕入債務 成長率)	119.7%	-	

運転資本（WC ワーキングキャピタル）＝ 売上債権 ＋ 棚卸資産 － 仕入債務

現金回収されるまで滞留している資産（売上債権 ＋ 棚卸資産）と、仕入れ代金の未払い債務（仕入債務）とのバランスを分析する
図で表すと下記のような形になる ↓



CCC（キャッシュ・コンバージョン・サイクル）を分析し、必要な運転資本を日数で表す

→ 売上債権回転日数 ＋ 棚卸資産回転日数 － 仕入債務回転日数

売上高	1,200		
売上原価	900		
売上債権	100	売上債権回転日数	30.4日
棚卸資産	150	棚卸資産回転日数	60.8日
仕入債務	200	仕入債務回転日数	81.1日
		CCC	10.1日

CCCの日数が短いほど＝おカネが効率的に運用されている状況で良い

資本の効率的な運用を求める声も高まり、売上債権回収の早期化や在庫の圧縮などの取り組みによってCCCの短縮を図る会社も増えている

※ 必要な運転資本や、CCCのバランスは業態によって大きく異なるので同業他社 間で比較することが肝要

売掛は早期に現金回収され、在庫の滞留も少なく、支払いは余裕をもって行える状態になると、CCCがマイナスになることもある
仕入の支払いより売上代金の回収が先行する状況なので、事業活動における会社の資金繰りは楽になると言える

●計算フォーム ↓ 枠内 青い色付き部分に数値を入れてください

分析項目	直近期	その1年前
売上高	100,000千円	90,000千円
売上原価	80,000千円	70,000千円
売上債権	15,000千円	12,000千円
棚卸資産	10,000千円	8,000千円
仕入債務	15,000千円	13,000千円

売上債権回転日数	54.8日	48.7日	債権回収は6日ほど長期化したほか、
棚卸資産回転日数	45.6日	41.7日	在庫も4日分ほど増加した。
仕入債務回転日数	68.4日	67.8日	支払いサイトはやや伸ばせたが、
CCC	31.9日	22.6日	トータルでは9日ほどCCCは悪化、
WC（運転資本）	10,000千円	7,000千円	必要な運転資本は3,000千円増となった